

## 平成 27 年度 第 4 回みたけ創生有識者会議

日時	平成 27 年 10 月 25 日(日) 10 時 15 分～	
場所	中山道みたけ館 1 階研修室	
委員	出席者	黒田晃司、永谷嘉規、永井明子、小林智尚、水内智英、谷口清治、柴田永治 順不同敬称略
	欠席者	齊藤公彦
みたけ政策アドバイザー	出席者	野中幸広 順不同敬称略
事務局	町長 渡邊公夫 総務部長 寺本公行 企画調整担当参事 葛西孝啓 企画課 各務元規、高木雅春、川上敏弘	

### 1 開会

(事務局)

皆さま、おはようございます。本日は、日曜日にもかかわらず、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。皆さまお揃いのようなので、定刻より早いですが、只今から、「第 4 回みたけ創生有識者会議」を開催します。本日、司会と進行を務めさせていただきます企画課の各務と申します。よろしく願いいたします。それでは、開会にあたり、町長より挨拶を申し上げます。

### 2 町長あいさつ

(町長)

皆さま、おはようございます。お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は 4 回目の会議となります。これまでの会議ではご意見を、十分に出していただけたと思っています。

本年度 7 月に選挙があり、スタートが遅くなってしまった感は否めません。皆さまのご意見を反映し、御嵩町の独自の意思として、取り組んでいきたいと思っており、本日はその説明もさせていただきます。なお、議論するにあたり、否定的な意見でも構いませんので、シビアな審議をしていきたいと思っています。

資料を拝見して、高齢者福祉についての内容量が少ないと感じました。65 歳で定年しリタイヤされた後、御嵩町のために動いてくれる人が多いです。現在の御嵩町を支えているのは、実は高齢者なのです。敬老会に参加されているような方々は、体も気持ちも若い方ばかりです。このような人たちで、介護の必要な人を支えていきたいと思っています。

今後、高齢化は避けて通れない課題となってきます。いかに高齢者のシルバーパワーを上手く活用していくかが大切だと思います。男性は、社会との関わりが薄くなると、とたんに元気がなくなり、引きこもりがちになる傾向が強くなり、男性は「誰かに何かを望まれている」

ことが生きがいになっていると感じます。町民のグループで水土里隊もほとんどが70歳代です。60歳以上は高齢者のくくりにはなりますが、十分な戦力になり、大きな力を秘めた年齢層になるのではと、私は考えています。

また、御嵩町には高等学校が2校あるので、高校生をどのように社会参加をさせていくかもテーマになるだろうと思います。

このようなものは検証をしていかないといけないし、ここからどのように実践していくかも考え、取りかかる前から議論していかなければならないと考えています。

本日の審議は、国に提出する前の最終会議です。今後は、折々、個々に連絡を取りながら進めていきますが、これで解散ということではなく、また具体的な形にしていきたいと思っています。

私は冒頭の挨拶のみとさせていただき、皆さまには厳しい意見を述べていただき、忌憚のない意見の交換をしていただければ幸いに存じます。どうぞよろしくお願ひし、これにて退席させていただきます。

### **3 副座長の選任**

(事務局)

会議の前に、委員の出欠をお伝えします。

齊藤委員においては所要のため、欠席です。なお、本日の会議の場所の中山道みたけ館は、図書館と郷土館がある複合施設となっています。郷土館においては、御嵩町の歴史が分かるパビリオンのような造りになっています。御嶽宿の歴史や宿場の成り立ちが分かるので、お帰りの際は、ぜひお立ち寄りください。

では、これより、座長の小林委員より進行をお願いします。

(座長)

皆さま、おはようございます。皆さま、どうぞよろしくお願ひします。

本会議としては最終となりますので、良いまとめができるよう、活発なご意見をいただきたく思います。

では、これより議事に入ります。まず、副座長の選出を事務局よりお願ひします。

(事務局)

前回の会議で座長はお願ひしましたが、副座長の選任も要項にありますので、選出したいと思いますが、皆さま、いかがでしょうか。

立候補者がいないようなので、事務局案としては黒田委員に副座長をお願ひしたいと思ひます。

(委員一同)

一同異議なし。

(事務局)

では、黒田委員に副座長をお願いします。選任にあたり、一言ご挨拶をお願いします。

(黒田委員)

東海化成の黒田と申します。我が社の経営理念も「地域貢献・地域共生」を掲げています。役場の皆さまや、委員の皆さまのお力も借りながら、副座長を精一杯、務めて参りますので、どうぞよろしくをお願いします。

## **4 議事**

(1) 御嵩町人口ビジョン(案)について

(2) みたけ創生総合戦略(仮称)(案)について

(3) 策定スケジュールについて

(座長)

では議題(1)御嵩町人口ビジョン(案)について、(2)みたけ創生総合戦略(仮称)(案)について、引き続き今後のスケジュールについて事務局よりご説明をお願いします。

<資料に基づき(1)御嵩町人口ビジョン(案)、(2)みたけ創生総合戦略(仮称)(案)について、今後のスケジュールについて説明>

(座長)

まず、環境モデル都市について、ご意見を頂きたいです。環境モデル都市については、資料2の7ページの基本目標1「環境のまちで元気！」にあたります。

私もアクションプランの策定に関わらせていただき、御嵩町は、早くから再生可能エネルギーに取り組んでいたと思います。当時は太陽光発電が中心でしたが、現在は「木質バイオマス」が中心となり、森林の活用に移ってきています。太陽光発電の場合は設置したら終了してしましますが、木質エネルギーだと、様々な場所で、様々な人が関わることとなり、町の活性化にもつながっていきます。

先日、森林利用が活発である、北海道の下川町に、御嵩町の子どもたちと視察に行ってきました。下川町では、再生エネルギーを使用したり、山を維持するというだけではなく、山に対する取り組みを農業につなげ、農業によって経済までつなげる先進的な取り組みを行っていました。

私は、御嵩町が太陽光発電から木質バイオマスに移ることは良い取り組みだと思いましたが、アクションプラン全体を見た時には、盛り込み過ぎていると感じました。しかし、実際には上手く活用し、動いていると聞き驚きました。町長の高い意識の下で町全体が動き、町民の理解や協力も得られるので、上手く動いているのだと思いました。

先ほど、事務局より、環境モデル都市について説明がありましたが、何か意見はありませんか。他、町についての要望や改善点などあれば、ご意見をお聞かせください。

(谷口委員)

環境モデル都市を中心にとすると、総合的な視点で進める事は素晴らしいと思いました。

34 ページの「亜炭鉱の問題について」が気になります。「環境モデル都市」の取り組みと連動した亜炭鉱廃坑対策、防災対策を進める」とありますが、具体的にどのような施策でしょうか。亜炭鉱の負のイメージを、どのようにしたら、良いイメージにステップを踏めるのかを打ち出せていけたら良いと思います。

(座長)

御嵩町は亜炭鉱という特殊な地域事情があります。防災課の永井委員より、亜炭鉱についてご説明をお願いします。

(永井委員)

亜炭鉱については、直接は商工労働部で行っているのですが、私の知る限りの説明を致します。

年に数回ほど、亜炭鉱による土地の陥没があります。本年度より国のモデル事業もやっています。そのように位置づけをしてやっています。

私から事務局に質問ですが、亜炭鉱のモデル事業と 36 ページの事業 2 の亜炭鉱廃坑対策の推進の違いを教えてください。

(事務局)

再生可能エネルギーを学校・公民館等の自立型の避難所に導入し、避難所の機能を上げていくことを考えています。御嵩町の 80%は亜炭鉱であり、亜炭鉱がないのは上之郷地区くらいです。災害が起こると陥没が起き、インフラにも大変影響が出てくると思います。そのような意味でも自立型エネルギーを独立型で運用し、環境モデル都市の取り組みとつなげていけたらと思っています。36 ページの事業 2 の亜炭鉱廃坑対策の推進はもともと町で進めてきたものです。

亜炭鉱が陥没すると、場合によっては命に関わるので、定住促進の為に、亜炭鉱対策の強化を行い、安心・安全なまちをつくっていきたいです。

(座長)

御嵩町は、災害が起こった際、孤立しやすいという特徴もあります。数日は避難所で生活できる状態にし、救助を待つ体制をとっていきたいと考えています。

現在、自立型エネルギーが整備されている公民館や学校はどれくらいありますか。

(事務局)

公民館は順次、整備を行っている段階です。企業では P & G が整備されています。

(永谷委員)

分散型エネルギー・バイオマス発電とは、どのような発電方法なのでしょうか。

(事務局)

木質バイオマスエネルギーの活用については、今後、戦略の中で、調査・研究を進めていきたいと考えています。詳細が資料2の12ページに掲載されています。木質バイオマスエネルギーの研究を来年度から始めていくべく、導入・基礎調査事業を実施し、この調査結果に基づき木質バイオマスエネルギーを活用した住宅整備や、滞在型の施設を進めていくつもりです。

我々も初めての試みなので、先進地の事例を調査し、御嵩町にあう形で木質バイオマスエネルギー導入を考えています。

(永谷委員)

発電ではないですが、暖を取る目的程度ならばペレットストーブも良いのではないのでしょうか。

(事務局)

ペレットストーブも検討していました。

今後、改めて、皆さまのご意見もいただきたいと思っています。

(永谷委員)

薪ストーブは薪が多く必要となり、備蓄が大変ですが、ペレットストーブだと分散型の避難所にも備蓄させやすいと思います。

(座長)

生活の中では、日常使用する電化製品はあまり電力を使用していません。エネルギーとして使うのは、「熱と動力」ですが、そのうちの「熱の部分」をペレットストーブで得ることができるなら、非常に有効なエネルギー源になるのではないのでしょうか。電気を使って熱を取るの効率が悪いと思います。

(永谷委員)

以前、モリコロパークで開催された「ソーラーパネルを自作しよう」というワークショップに参加しました。参加者の中で「太陽光などの自然のものを一度、何かに置き換えて熱にするのは非効率的」だと意見があったのが、大変印象的でした。

太陽光のエネルギーをそのまま使うことが、今後の鍵になってくると思います。

(事務局)

特に、備蓄について考えると、薪よりもペレットが適していると思います。ペレットのよ

うに便利だと普及してくるのではないのでしょうか。

(柴田委員)

御嵩町内には、林業家はどのくらいいますか。

(事務局)

御嵩町内で、林業で生計を立てている人はいません。町所有の山がありますが行政で管理するのが難しいので、森林信託方式を行っており、所有権を可茂森林組合に預けています。森で出る間伐材をどう活用していくのかは、今後の課題となっています。町民ボランティアで里山を守っている状況です。

(柴田委員)

木質バイオマス発電についてですが、間伐材をチップにし、可茂森林組合が販売しているということですか。

(事務局)

現在は可茂森林組合で間伐材のみの販売です。可茂森林組合が販売している間伐材だけの量で木質バイオマスエネルギーを供給できるのかという可能性は今後、調査していきます。

(永谷委員)

すでに、白川町では木質バイオマスを行っていますが、何か話を聞きましたか。

(事務局)

施設の視察はしましたが、どのような経路で木質バイオマスを行ったのかは、まだわかりません。

(永谷委員)

白川町で、実際に「木質バイオマスエネルギーを行うと、採算が合わない」という話も聞いていたので、現在の状況が気になりました。

(事務局)

白川町の木質バイオマスエネルギーは、当時、先進的な事業でした。少し前に話を聞きましたが、白川町の林業の企業、数社から出た間伐材を使用しているのですが、「木質利用バイオマスを使用する施設が多すぎて、定期的にエネルギーとして機械全体を回すのが難しくなっている」という話でした。

(事務局)

他に、木質バイオマスエネルギーの利用を考えているのが、空き家を改築した施設に導入

や、再生エネルギーを使用した住宅・アパート等の住宅団地をつくり、「ある一定の区域だけ賄えること」を想定して考えています。大きな施設の発電は、やはり難しいので考えていません。

現在は、町内で使用すると思われるエネルギー量を、町内の間伐材で賄う事ができるのかを調査事業で検討していきたいと考えています。

(谷口委員)

疑問なのですが、「環境モデル都市」と「地域創生」はどのように関連するのでしょうか。地方創生は、人口の維持や増加が根源なので、それとリンクする部分はあるのでしょうか。環境モデル都市になることで、町民が一体となって取り組み、まち全体が環境保全に取り組んでいることが、まちの誇りになり、教育にも波及していくと思います。

私は「CO<sub>2</sub>削減に対して、どのように取り組んでいくのかが、今回の戦略のてっぺんにくる」のだと思っていました。それに合わせて、高齢者の元気にもつながるという理解でよいでしょうか。

(事務局)

「環境モデル都市」について、老若男女が取り組んでいることが、まちの魅力のひとつでもあると思っています。

町所有の山を森林信託に任せていると、地域のボランティアや定年になって名古屋市などから御嵩町へ戻ってきた人が、積極的に里山保全に取り組んでくれています。元気な高齢者が地域の子どもたちに森林について教えたり、良い循環になっていると感じます。

名鉄が通っているので、週末を利用して、都会の人が森づくりに参加したり、アサヒビール等、企業も積極的に森づくりに携わってくれています。そのようなまちづくりで交流人口を増やし、定住を増やすことにつながることもイメージしています。

(座長)

資料にすると、バラバラな文言や表現になりますが、「すべてがつながるイメージで、やっけて楽しく、お金になる」ことが目標であります。CO<sub>2</sub> だけのためにという意識で行うと、様々な事につながらなくなり、続かないのではと思います。

海外の事例などをご存じでしたら、水口委員お願いします。

(水内委員)

国立地球科学総合研究所のプロジェクトに参加していただき、総合的な地球環境問題の解決には地域の力が大切だと言われています。まだ研究段階ではありますが「グローバルに対するローカル」ではなく、「ローカルがいかに関わり地球環境問題につながっているか」がだと思います。

古い事例になりますが、イギリスの「ゼロエミッション住宅」というのが注目されました。

建築段階から、近隣の木を使用し、太陽光・風力・ガスで完全に暮らしを回していく世界初の試みをしました。住民は、暮らしをしていて楽しそうであり、そのなかに保育所も併設されており、その区域の中でコミュニティができていたことが魅力に感じ、総合的に働いていくと素晴らしいと思いました。

「もりもり保育園」という施策があったので、まずは、そのような所に木質バイオマスを導入していくのも、教育面や普及面で、様々な相乗効果があるかもしれません。

(事務局)

経済が上手く回ると、様々な所も上手く回っていくような気がします。工業団地のみならず、まちづくりに大変協力してくれますが、具体的にどのような、取り組みをしているのか紹介を黒田委員お願いします。

(黒田委員)

小牧市の住友林業が、長野県で月に数回ほど森林整備を行っています。東海化成でも何か取り組みを行っていきたいです。

企業でもCO<sub>2</sub>削減の目標値は出ており、削減に取り組んでいますが10ページで「CO<sub>2</sub>の排出量の数値目標が15.6t→14.1t」となっていますが、削減数値の根拠はあるのでしょうか。

会議を減らすと部屋の電力が減るのでCO<sub>2</sub>削減につながるとありました。公用車をハイブリットに替え、工場で使用するものをガソリンから電気に替える等、小さなことも積み上げ、コストとのバランスを取りながら、CO<sub>2</sub>削減の努力をしています。

(事務局)

アクションプランの方で設定したものです。御嵩町ではCO<sub>2</sub>を減らすだけでなく、「CO<sub>2</sub>を吸収する方の取り組み」を重点的に行っています。森を大切に扱い、手入れをすると、より多くのCO<sub>2</sub>を吸収してくれます。町所有の山は管理していますが、民間が持っている、放置されている山を手入れし、森づくりを進めていき、CO<sub>2</sub>を削減したいと考えています。

行政では、CO<sub>2</sub>削減の為に、ハイブリットカーの導入や鉄道の活性化など行っています。

(黒田委員)

企業誘致などを活発に行うと、その分、CO<sub>2</sub>が増加し、分母が増えてCO<sub>2</sub>削減の目標達成が難しくなってしまいます。その分のCO<sub>2</sub>吸収の方を頑張らねばならないと思います。

御嵩町は環境モデル都市ですが、どのようにCO<sub>2</sub>量を下げているのかが興味があります。

(事務局)

木が多ければCO<sub>2</sub>を多く吸収するのではなく、間伐し、若く伸びる木の方がCO<sub>2</sub>を多く吸収してくれます。森を手入れすることにより、CO<sub>2</sub>削減につながるので、御嵩町では町所有の山の森林保全を民間の森林信託にお願いしたことで、行政としても動きやすくなって



います。

(座長)

企業の森には参加できるのでしょうか。

(事務局)

現在は休止中ですが、ゆくゆくは、企業の森を進めていく構想もあります。その時は、よろしくをお願いします。

(座長)

企業の森というと、企業は喜んで参加すると思います。

CO<sub>2</sub>削減については、ハイブリット車は高価ですが、ガソリン代がかからず、長期使用すれば経済的で、環境にも優しいという方が現実的かもしれません。

亜炭鉱対策のロードマップはあるのでしょうか。

(事務局)

まだランドデザインはできていません。

道路の陥没等、起きてはならない災害を防ぐために、国の強靱計画でも出てきています。それも踏まえてランドデザインを考えていきたいと思います。ロードマップについては現在は岐阜県がつくっており、各市町村でもつくっていく予定です。

(座長)

御嵩町というと、亜炭鉱のイメージがあり、「町外の方は、御嵩町には亜炭鉱があり、陥没の危険があるから住みたくない」とネガティブなイメージがあります。いつまでに整備され、安全が確立されるのかの目安が分かると、町外の方も安心して御嵩町に移住することができると思います。

(事務局)

国土交通省も道路の整備もしており、ハザードマップも精度を上げてつくっていこうと思っています。

(座長)

今回が最後の審議となりますので、環境モデル都市にとらわれず、皆さまのご意見や知恵をお願いします。

(永谷委員)

戦略については頑張ってもらえたのは分かりますが、盛りだくさんな印象を受けました。総合戦略の施策一覧等ありますが、役場職員の仕事等の負担は大丈夫でしょうか。

地域住民やボランティアも関わってくるとと思いますが、自治体活動が大変になっている地区もあるように思います。地域住民は減りつつあるなか、一人ひとりに増えてくる負担に対する体制はどのように考えていますか。

(事務局)

総合計画の審議会でも同じ話題が出ました。まだ、明確な答えは出ていませんが、既存の地域のつながり方や組織の見直し方を、議論をしているところです。岐阜県の田舎にいくと消防団の定年も伸びてしまっている現状です。

(事務局)

すべて、役場の方でやるわけではなく、住民の力も借りることになるのですが、昔と同じ組織づくりは難しいです。ひとつの解決方法としては、元気がある高齢者や、子育て支援のボランティアを行っている若い層を発掘して活用していくというのも必要だと思います。

計画内容が盛りだくさんで、総花的な印象は、1つの目的として、国からの交付金を獲得し、活用しながら行っていくという面もあります。

(座長)

行政だと、事業を行う際に最後は評価をしたいと思います。客観的な評価をしていただき、上手くいかなかった場合の評価もほしいです。失敗の要因も含めて、原因を探り、解決策も考えて、最後の評価をしっかり行ってほしいです。

(事務局)

本日で4回目の有識者会議ということで、総合戦略を確定して、国に報告するのですが、問題はつくった後どうするかだと思います。行政が身を引き締めるためにも、今後も厳しい目で、委員の皆さまが、行政に意見を沢山言っていってほしいと思っています。

(座長)

御嵩町は町として、程よい大きさなので町民の意見が聞こえやすいです。この委員の皆さまは町の外も知っているのも、そのうえでも評価ができるのではないのでしょうか。

(永谷委員)

私から見たら、御嵩町の職員は頑張っていると感じますが、住民の評価は必ずしもそうではないので、悔しく思っています。より理解をしてもらえるように、住民の人ともっと近くなる工夫ができたらいいのではないかと思います。「一緒にまちづくりを行っていく仲間」だと思ってもらえるような、働きかけができるとういのではないですか。

(座長)

私も、御嵩町の職員は積極的に町民と関わり動いている魅力ある役場だと感じます。私は

岐阜市に住んでいるのですが、岐阜市職員は受け身だと感じます。

(永谷委員)

正当な評価をされないのは、一般的な行政のイメージが蓋をしているからではないでしょうか。その蓋を取っ払うような、新しい関わり方を見つけることができれば、町民と行政がより良いコミュニティをつくれると思います。

(事務局)

そのことは私共も悩んでいます。消防団を例にとっても「世代間で求めるものが違う」のが難しいところです。

何とか良い方法で、地域の良い関係のなか、自主防災力も含めて考えていきたいと思っています。なにか良い案があれば、知恵をお貸しください。

(黒田委員)

「ほっとみたけ」の最終ページの町長の記事を読むと、町民も参画している感じがします。

(永井委員)

私も同感です。町長の記事を読むたびに、「御嵩町に住んでも大丈夫だ」と思っています。

(黒田委員)

御嵩町の工業団地の存在は大きいと思います。もう少し、町からPRするように行政にお願いをしてみてもどうでしょうか。メリットとしては、機械音などの騒音対策をあまり気にしなくて良い所だと思います。「太陽光発電を付けましょう」等、企業も負担にならない程度の共同歩調を行い、国にPRできるのではなでしょうか。

(永谷委員)

企業だけではなく、住民にも頼っていても良いのではと思います。

(黒田委員)

思いつきですが、町営バスの料金を企業が利用する際料金を少し高く設定しても良いと思います。

(事務局)

時間になりましたので、一度、頂いた意見をまとめさせていただきます。委員の皆さまは、御嵩町と他の町を知っているので、他と違うことがあれば、御嵩町役場にご一報をお待ちしております。

## 5 閉会

(事務局)

本日は、長い時間、審議に参加して頂き、ありがとうございました。様々な事業間でリンクしながら、総合戦略を進めていきたいと考えています。皆さまからいただいた意見を取りまとめ、国に提出をしていく予定です。

皆さまから貴重な意見をいただいて、この総合戦略を取りまとめができることになりました事は、非常に感謝しています。

なお、皆さまには年度末の評価に関わっていただきたく思います。総合戦略については10月末に国に提出し、それ以外に、ご意見等ありましたら、事務局までご連絡くださいませ。

皆さまのお手元にパンフレットがあるのですが、本年度、御嵩町は60周年を迎えました。11月29日に町制60周年の記念式典を開催させていただきます。その間、御嶽宿の中心の願興寺も1,200年の節目を迎え、11月21日から12月4日まで、秘仏の御開帳を行います。願興寺には平安時代から鎌倉時代にかけての仏像が24体あり、京都の仏像と遜色ないほど素晴らしいものです。

今回、総合戦略の中にもあった観光プロモーションの事例とし、このようなパンフレットを作成しました。パンフレットはサービスエリア、道の駅、県内の市町村の観光案内所、名鉄の各駅に置いてもらい、より多くの人に御嵩町を知ってもらい、来ていただこうと考えています。その為には、住民の協力も必要となり、パンフレットの最後のページに、御嶽宿周辺の人々が、御嵩町に来ていただいた、おもてなしをしようとの案で、特典をつけました。

ぜひ、このような機会に御嶽宿を知っていただき、観光プロモーションとして実施しますので、委員の皆さまも是非、ご参加ください。

また、FacebookやTwitterにも上げています。委員の皆さまも、いいねボタンを押したり、シェアをして情報を拡散させてください。皆さまからも御嵩町の情報を発信していただければ有難く思っています。

本日は、長時間にわたりご議論いただき、本当にありがとうございました。これをもちまして、「第4回みたけ創生有識者会議」を終了させていただきます。

以上